



福澤育林友の会

東京都港区三田 2-15-45 慶應義塾 管財部

TEL03-5427-1532・FAX03-5427-1533

<http://www.f-ikurin.jp>



理事長就任にあたって

(財)福澤記念育林会

理事長 森 征一

この6月より、福澤記念育林会の理事長に就任しました森です。義塾においては、昨年7月1日に安西塾長のもとで、常任理事に就任しました。常任理事としては、総務、法務、塾員(主管)、育林会を担当しています。

昨年は、9月に「石川県尾口の森、岐阜県白川郷」の研修旅行に参加し、初めて育林会の事業に触れる機会を得ました。以来、3月の幼稚舎の杜などにも参加し、森林体験を通して育林活動の大切さを知り、育林会への理解を深めてきました。

いま世界中で森林破壊が急速に進んでいます。地球上で最大の熱帯林があり、世界の酸素のおよそ3分の1を供給しているブラジルのアマゾンが、工業化による開発の波が急速に押し寄せています。

かつてヨーロッパは巨大な原生林の樹海が果てしなく覆いつくす「森林の王国」でした。ペロウ童話の「眠れる森の美女」が、呪いによって100年の眠りにつくと、彼女の眠る城が、巨木や灌木、茨で包まれ、人も獣も近寄れなくなる森林とヨーロッパの人々は戦いを繰り返し、数百年をかけ、18世紀にはついに勝利者となりました。ヨーロッパのこの森林破壊の過程が、ブラジルでは短期間に集中的に進行しているのです。すでにアマゾンの5分の1は破壊されたといわれています。ブラジルにおける熱帯林の伐採は、赤の染料をとるためのパウ・ブラジル(ブラジルの木)の伐採に始まりますが、皮肉にもブラジルの国名の由来となったこの木はいまや大半が失われてしまっています。

ブラジルの開発への熱気を見ると、19世紀のアメリカかと思われまます。アメリカはその開拓初期から、西に向かって入植を続けるが、しかし西海岸に到達するや、1890年、連邦政府は「フロンティア」消滅を宣言しました。それまで無限と信じられていた土地と自然に限りがあることに気が付き、以後アメリカは、自然を保護していこうという方向に向かうこととなります。ブラジルの国土は広く、南アメリカの47%を占め、面積では世界第5位で、アラスカを除くアメリカとほぼ同じ大きさです。植林面積は553万平方キロで、世界最大です。このブラジルが精力的に開発の道を突き進んでいます。このままで行くと、ブラジルの「フロンティア」消滅宣言は、21世紀末には来てしまいそうです。なんとか皆で知恵を出し合って、この消滅宣言を消滅できないものでしょうか。この難問を福澤記念育林会の活動を通して皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

しばらくは不慣れな理事長ですが、皆様のご理解・ご支援をいただき、この育林事業をさらに実りあるものにしていきたいと存じます。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

(財)福澤記念育林会 新理事長の選出

去る6月17日に開催された(財)福澤記念育林会の理事会・評議員会において、本年6月26日付で任期満了となる役員の改選が行われた。田中俊郎理事長の後任として、新たに理事に就任された森征一理事を満場一致で新理事長に選出した。

森 新理事長プロフィール

(1943年生まれ)

◆略歴

1967年3月 慶應義塾大学法学部卒業

1970年3月 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程修了

1976年3月 一橋大学大学院法学研究科博士課程修了

1970年4月 慶應義塾大学法学部助手

1988年4月 慶應義塾大学法学部教授

2005年7月 慶應義塾常任理事

◆慶應義塾内における主な役職

2000年10月 大学学生総合センター長、同学生部長

2001年10月 法学部長

◆専門領域「ヨーロッパ法制史」

第5回 森を愛する人の集い

2006年6月17日(土)

慶應義塾大学 三田キャンパス北館ホール

今年は、育林友の会設立5周年を記念し、全国で大人気の養老孟司先生に「私の愛した虫と森」という演題でお話をいただきました。

先生は子供の頃から大の虫好き、ゾウムシの研究でも有名です。虫を求めて森に入る機会も多く、手入れをしない山林が増えている現状を危惧なさっています。採算が合わないからという理由で間伐をしないのは、売る方法を考えることを放棄している。林業のみならず日本中が考えることを放棄する傾向にあると指摘されました。

人間は感性で個々に受け止めた物でも脳に取り入れると信号が働き「同じ」ものとして記憶する力が強くなるそうです。例えば男女が同じ言葉を発した場合、動物は声色の違いから「違う」ものとして受けとめるのに対して、人間は「同じ」ものとして理解します。「同じ」ということが判る能力によって、人間は言葉とお金を使いこなしています。しかし、日常が「同じ」という世界に集約してしまうことは、森などの自然が失われることに繋がります。なかでも都会のエリート達は「同じ」への集約の中で生きてきた人が多く、彼らに第一次産業を理解させるためには、田舎で農作業などをして感性を養う「現代版参勤交代」を取り入れるべきだとおっしゃっています。そしてマニュアルではなく色々な方向から基礎力をつけ自分で知恵を出すことが必要であり、「違い」の判る人間になること、人を見る目が大切であるとお話されました。そのためにも、自然に触れ感性を養うことが大切だと締めくくられました。

先生のお話を伺い、育林友の会が野山への架け橋になれるよう、活動していきたいと気持ちを新たにいたしました。200人の参加者が先生のお話に聞き入り、現代人と脳の関係を知る貴重な、そして楽しい時間となりました。講演会の後に行われた懇親会でも学生たちと気さくにお話をしていただき、和気あいあいのうちに会はおわりました。



リラックスして語りかける養老先生



身を乗り出して熱心に語りかける



会場は満席

エコづくめの室内涼化実験報告

～ (財) 福澤記念育林会研究補助金受給団体の研究発表 ～



(財)福澤記念育林会は、夏場の室内を涼しくするため「緑のブラインド」を考案し、実証を試みる(有)富士エコパークビレッジ(代表:今井雅晴氏)に研究補助金を支給しました。「緑のブラインド」の実証とは、一体、どのようなことなのでしょう。同社の研究発表を中心に、その内容をご紹介します。

今井氏考案の「緑のブラインド」とは、南側の窓をつる性の植物で覆い、その植物に太陽エネルギーによる装置で雨水を散水し、部屋の温度を下げるという、まさにエコづくめの室内涼化のことで。

そして、研究の課題は、「緑のブラインド」によって、どのくらい室温を下げられるかがテーマです。

研究に当り、(有)富士エコパークビレッジは、早生博之コーディネーターを中心に、今春から学校を舞台に室内涼化実験に取り組みました。

実験は、東京・杉並にある都立農芸高等学校に場所を提供してもらい、植物の育成についても農業専門の同校に大いに支援してもらっているとのこと。また、実験に使われている雨水ポンプや太陽エネルギーの装置は都立杉並工業高等学校の機械工作部有志のみなさんの技術協力によるものだそうです。そして、去る6月17日、「森を愛する人々の集い」において、この実験の中間報告をしてもらいました。当日は、今井氏が「緑のブラインド」のしくみを説明された後、実験の設置や観察に協力した都立農芸高等学校の3人の生徒さんから次のような感想や体験談の発表がありました。

渡辺優さん: 苦労したことは？

「苗を植えるための畝づくりが大変だった」。なぜ、大変だったのか？「植物の根の育成を阻害しないよう、多量の土を運び入れて、高さ30センチの畝を作るのが、とても大変で疲れた」。

唐澤早紀さん: どんな植物を植えたのか？「ミニトマト、坊ちゃんカボチャ、ゴーヤ、アサガオ、フーセンカズラ」。どうして、これらのプラントを選んだのか？「食と観の視点から、おいしく食べることができ、しかも、カラフルで美しく、見ていて楽しいブラインドができるようにと考え選んだ」そうです。

渡邊里美さん: 植物の並べ方は、どのように決めたか？「五本ごとにアクセントとして、岐阜の赤いアサガオを植えた。

皆で工夫したので、咲くのが楽しみ」。成った実について、「私は料理が好きなので、できた実を収穫して、美味しい料理を作りたい」。

シンポジウムでの研究発表は以上で、その後の様子について、この実験を担当された同校の食品科学科の佐々木一憲先生から、「シンポジウムが行われた6月17日には、まだ小さかったつる性の植物たちは、7月に入るとぐんぐん伸びました。

ミニトマトは小さい赤い実を鈴なりにつけ、坊ちゃんカボチャは黄色の花を咲かせ、深緑の小さい実をつけ、かわいいブラインドになってきました。7月中旬には、一階の教室の窓をほぼ覆うほどに成長しました」とご報告を下さいました。さらに、『『涼しい教室だね』(概観だけでなく)内からの眺めもなかなかいいね。暗いかと思ったら、案外、明るいじゃない』『太陽エネルギーで、雨水が霧のように散水されているよ。すげえー！』と生徒たちが話しています」とおっしゃっていました。「成った実はどうされているのか」お聞きしたところ、「生徒たちが通りがかりに、赤いプチトマトをとってよく食べています。思わずニコリ、『うめえー』という顔をします」と話されていました。



簡単ですが、以上が平成17年度の研究補助金を受けた(有)富士エコパークビレッジの研究報告です。身近で美しく楽しい「緑のブラインド」はまさにこれからのエコクーラーではないでしょうか。今後の実用化が大いに期待されるところです。

なお、教室の温度は何度下がったか？など、この室内涼化実験の最終結果は、今秋、東京・杉並で行われる環境博覧会で報告されます。興味を持たれた方はぜひご来場ください。



..... 環境博覧会

と き: 2006年10月14日(土)

と ころ: 高井戸地域区民センター(京王帝都 井の頭線 高井戸駅下車、徒歩2分)

東京・杉並区高井戸東3-7-5 TEL: 03-3331-7841

★都立農芸高等学校手作りのジャムの販売があります。毎年、大好評!

★(有)富士エコパークビレッジが無農薬有機栽培の太い大根を販売します。

第7回 修善寺幼稚舎の杜 植林報告

幼稚舎の杜植林は今年で第7回を迎えました。昨年は雪のため植林を断念いたしました。今年は晴天に恵まれ、全員無事に植林をすることができました。

今年の植林地は緩やかな斜面でしたが、事前の準備がよく、みんな楽に苗を植えることができました。今年は土の中からヤスデやミズなどいろいろな虫が出てきて、子どもたちの話題になりました。

毎年、1年目に植えた木の育ち具合を調べていますが、もう木の高さは2mを超えてしまいました。子どもたちでは正確に測ることができないので、木の周囲の長さ(太さ)だけを測定しました。今日植林した苗の太さは1~2cmしかないのに、7年前に植えた木の太さが10cm近くにまで大きく育っていることに驚きの声がありました。

シイタケの「コマ打ち」も、幼稚舎生全員に体験させていただいています。シイタケの原木を用意いただき、その場で穴を空け、コマと呼ばれるシイタケ菌の入っている小さな木片を金づちで打ち込むのですが、子どもたちにとっては貴重な体験です。一昨年、幼稚舎生がコマ打ちした原木から育ったシイタケを、お土産にいただきました。肉厚ですばらしく美味しいシイタケなので、お土産目当ての参加者がいるほどです。

楽しい1日を幼稚舎生ほかみんなが過ごせたのも、関係者のおかげと感謝しております。植林地寄贈者の井草實さんご夫妻には、いつも植林に参加いただいております。慶應義塾および幼稚舎の職員の方々と修善寺森林組合の方々には、事前の準備および当日の手配など様々なお仕事をいただき、誠に有り難うございます。福澤記念育林会の海瀬亀太郎さんからは、幼稚舎全員に立派な今回の植林の「写真集」をいただきました。記してお礼申し上げます。

幼稚舎教諭 馬場勝良 高梨賢英 白井文子



大きく育てよと苗を植える



ネー見てみて可愛いね



先輩の植えた木こんなに育ってるよ

福澤育林友の会(平成17年度収支)

	収入	支出	適用	
前年繰越金	¥2,134,945			会費の口座振替 予定日について 平成18年度会費の口座振替予定日は平成18年9月25日を予定しています。 宜しくお願いいたします。
収入				
会費	¥2,020,000		平成17年度会費(226名分)	
	¥50,000		平成18年度会費(1名分)	
利息	¥21		普通預金利息	
支出				
寄付金		¥2,500,000	(財)福澤記念育林会・育林事業への寄附	
通信費		¥60,000	会費引落案内通信費	
手数料		¥27,268	会費引落サービス手数料	
当年度収支	¥2,070,021	¥2,587,268		
次年度繰越金	¥1,617,698			